

八雲だより

発行 厚生センター八雲
松江市上乃木7丁目1-28
電話 (0852)27-6073
令和3年 10月 発行

ユニットケア実践理念

お一人おひとりの想いに寄り添い、"ふつうの暮らし"を提供します。

施設長あいさつ

日頃から特別養護老人ホーム厚生センター八雲の運営につきまして、ご利用いただいている皆様をはじめ、ご家族、地域の皆様等から温かいご支援とご協力をいただいておりますことに、心から御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症については、令和3年9月30日をもって緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置を終了する旨が公示され、併せて新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針が変更されました。しかし、9月末に島根県内の高齢者施設にてクラスターが発生する等感染防止対策を引き続き行っていく必要があります。厚生センター八雲においても面会制限や行事の中止・縮小、外出自粛等を継続しており、入居者・ご家族の皆様には大変ご不便をおかけしております。

ワクチン接種も順調に実施され、社会情勢も少しずつ落ち着いてくると期待しておりますが、不自由な生活によるストレスや不安を感じることも多いと思われます。このような時だからこそ心と心の繋がり、人と人が認め合う気持ちを大切にしていきたいと考えております。厚生センター八雲では、ミニ夏祭りの開催や中止していたクラブ活動を再開しユニットを越えた交流の機会を持つようにしています。また、現在は窓越し面会ですが、寒くなる時季には1階談話コーナーにおいてアクリル板越しでの面会を検討しております。

今後も、基本的な感染症対策を継続しながら、更なるサービスの質の向上に向け、前向きにそして着実に職員が一体となって精進していきます。引き続き厚生センター八雲に対するご支援、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

厚生センター八雲 施設長 勝部 正子



ミニ夏祭り

8月11日にミニ夏祭りを行いました。久しぶりのイベントで皆さん、外出気分でお出かけになりました。感染の予防のため、普段生活をともにされている方に同じテーブルに集まっていたくなどの配慮を行いながらのイベントでしたが、多目的ホールには模擬店も出店し「おしるこ」「アイスクリーム」「駄菓子コーナー」「かき氷」とご自分の好きなものを選んでおいしそうに召し上がってきました。また、職員有志による音楽隊「はっぴーず」がこの日のために結成されました。大正琴、ギター、キーボード、ボーカルと、普段は見ることができない職員の姿に驚きながらも、楽しまれていきました。



敬老会



9月22日に各ユニットで敬老会を開催しました。昼食は、お祝いの花を飾ったテーブルで、赤飯や手毬饅頭のお吸い物、きんとん等、お祝い膳を召し上がってきました。「綺麗な花だね」とお花と食事を楽しんでいただけたようでした。昼食の前後で職員による音楽ユニットが各ユニットを回り、「ふるさと」など演奏を披露しました。一緒に歌ってくださる方もおられ、楽しいひと時を過ごしていただくことができました。



みんむすびユニット

ユニット活動



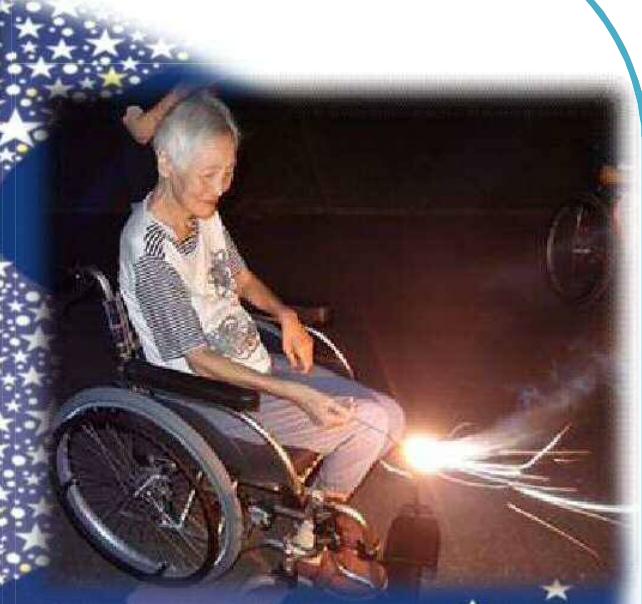
「夏と言えばそうめん流しをしたい!」との職員の声に「いいですね。やりましょうよ」との返事。この会話をきっかけに、職員は山へ竹を取りに行きました。

いざ、そうめん流しが始まると、「美味しいわ」「そうめんが行ってしまったわ」と、大賑わいで楽しいひとときを過ごしました



ふまい・めのうユニット

ユニット活動



8月の終わりに花火をしました
入居者様・職員一同季節を感じながら
一緒に楽しみました。
勢いのある花火も良いですが、
線香花火を好まれる方が多く、
すぐに落ちる様子を見て昔を感じる
懐かしさと懐かしさを感じておられました。



クラブ活動・作品展示

9月になり、クラブ活動を再開しました。“ちぎり絵”“書道”“生け花”と、久しぶりに手を動かして、作品作りを楽しんでいました。

10月13日には「あいあい祭」の代わりとなる展示会を行いました。例年であれば、夏祭りと並ぶ厚生センターの一大イベントですが、今年は規模を縮小し展示会としました。

晴雲の利用者の方とは、会場に入る時間を変えるなど感染対策を徹底して行いました。

展示された作品を見たり、晴雲の方の作品を見る機会に恵まれ、外出気分を味わっていらっしゃいました。



窓越し面会の継続について

自由に面会をしていただけず、ご迷惑をおかけしておりますが、ブレイクスルー感染等の事例もあり、当面、窓越しでの面会を予定しております。

寒さが厳しくなる時期には、アクリル板等を活用し感染予防に留意した上で、屋内にて面会ができるよう検討をしております。引き続き感染予防にご協力お願いいたします。

切布・古布の提供のお願い

毎日の支援に切布(20cm四方)を使用していますが、現在不足しております。綿素材のタオルや衣類など、ご家庭で不要な布がありましたら、施設の方へお持ちいただけると、大変助かります。また、ご自宅等で布切のボランティアをして頂ける方がいらっしゃいましたら、ぜひ、声をおかけください。ご協力お願ひいたします。

編集後記～祖父の想い～

個人的なことですが、この3か月の間に実家で法要がありました。もう12年も前に肺がんで亡くなった祖父。亡くなる前日まで自宅で過ごしました。できれば病院に行きたくなかった祖父のため、自宅で看取る体制も整えていましたが、最後の一日は実の娘の希望と、母の迷いで、病院に行き処置を受けました。病院のベッドで寝ていたのは、ほんの一日。なんのために病院に行ったのか、本当に病院に行った方が良かったのか、住み慣れた自宅で看取ればよかったですのか…。祖父自身の想いはどうだったのだろうかと、今でも家族の中で話することができます。

施設での生活も「本人の想いってどうなんだろう?」と思い、知ることから始まります。この数か月の間にも、施設で最期を迎えた方がいらっしゃいました。コロナ禍のため、面会の制限はありますが、最期の時間をご本人様、ご家族様で過ごせる時間ができるよう工夫をしたり、お好きなものなら少しでも味わってもらえるのではとユニットで卵焼きを焼いたり、コーヒーをお部屋で沸かしたり、ご家族に持参していただいたお刺身を毎週のように召し上がった方もいらっしゃいました。施設ではできない医療的ケアもありますが、住み慣れた施設、なじみの職員だからこそできる事を考えて、少しでも気持ちよく生活していただければと思います。